

2026年度 教科シラバス

高校1年 高入生

目次

現代の国語	2
言語文化	3
歴史総合	4
公共	5
数学I	6
数学A	7
物理基礎	8
生物基礎	9
体育	10
保健	11
英語コミュニケーションI	12
論理・表現I	13
家庭基礎	14

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
高校1年	国語	現代の国語	特選(高入)	3	『現代の国語』 『読解を深める現代文単語(三訂版)』 『書いてマスター常用漢字(改訂版)』 『LT現代文2』『新訂国語総覧』

教科・科目の概要と目標	学習方法と流れ
<p>○言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する。</p> <p>①論理の展開や要旨を的確に捉える。 ②物事に対する考え方を深める。 ③国公立大学受験を見据えた記述や演習を通して、確かな基礎力と実践力を培う。 ④漢字テストや語彙テストを通して語彙力を増やし、漢検上位級の取得を目指す。</p>	<p>1、教科書を中心に学び、資料集や演習問題等で応用部分を発展させて学ぶ。新しい単元の通読及び語句の意味調べ、漢字練習等は予習として各自必ず行ってから授業に臨むこと。 2、教材で評論文を扱う場合は文章の要約を行う。また、記述の演習も積極的に取り入れていく。模試の過去問題の配付等、適宜宿題を課すので意欲的に取り組むこと。 3、単元の調べ学習やグループプレゼンにiPadを活用し、授業への理解を深める一助とする。 4、定期考査毎に読書課題を出す。適宜指示に従うこと。 5、漢字検定対応のテキストを用いて、検定の上位級への合格を目指す。</p>

	1学期始め～1学期中間	1学期中間～1学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
1年間の授業の進度	<p>【教科書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「コミュニケーション能力とは何か」…社会 ・「水の東西」…文化 ・「I was born」 ・実用的な文章 <p>【読書課題】 『旅をする木』(星野道夫)</p>	<p>【教科書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「知識のシステムを作る」…ことばと認識 ・「羅生門」 ・実用的な文章 <p>【読書課題】 『地獄変』(芥川龍之介)</p>	<p>【教科書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「感情暴走社会の由来」…ポストモダン ・「サラバ！」 ・実用的な文章 <p>【読書課題】 『陰翳礼讃』(谷崎潤一郎)</p>	<p>【教科書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「白」…文化/認識 ・「城の崎にて」 ・実用的な文章 <p>【読書課題】 『小僧の神様』(志賀直哉) 他</p>	<p>【教科書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「命は誰のものなのか」…生命科学 ・短歌・俳句 ・実用的な文章 <p>【読書課題】 『ハムレット』(シェイクスピア) 『倫敦塔』(夏目漱石)</p>

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識技能	<p>①実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉の特徴や使い方に関する事項 ・話や文章に含まれている情報の扱い方に関する事項 <p>②実社会との関わりを考えるための読書の意義と効用について理解を深められている。</p>	<p>授業内小テスト(漢字・語彙など) 定期考査</p>
思考力判断力表現力	<p>①論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力が伸長している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「書くこと」「読むこと」に関する事項を身に付けている。 <p>②他者(作品含む)との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができている。</p>	<p>授業内小テスト(漢字・語彙など) 定期考査</p>
主体的に学習に取り組む態度	<p>①言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。</p> <p>②生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させようという意識がみられる。</p> <p>③日本の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養おうとしている。</p>	<p>課題 グループワークまたは個人ワーク</p>

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
高校1年	国語	言語文化	特選(高人)	3	『言語文化』『体系古典文法』『体系古典文法学習ノート』 『重要古文単語315』『助動詞マスターノート』 『基本セミナー漢文入門』『例文による漢文の習得』 『力をつける古典1』『新訂国語総覧』

教科・科目の概要と目標	学習方法と流れ
<p>○言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する。</p> <p>1、論理的な文章においては、次の2点を目標とする。 (1)論理の展開や要旨を的確に捉える。 (2)物事に対する考え方を深める。 2、文学的な文章においては、次の2点を目標とする。 (1)主題・構成・表現を正確に掴み、人物・情景・心情を的確に理解する。 (2)進んで読書・表現する態度を身につけ、物事を多角的に捉え立体的に表現する力を養う。 3、基本的な古文常識や古文の特徴を学ぶと共に、古典学習方法の基礎を学ぶ。 4、有名な古典作品の原文に触れることを通して当時の日本人の感性・文化・価値観について考え、国際社会における日本人としての教養を身につける。 5、用言・助動詞・敬語を中心とした古文読解に必要な基本的文法事項を身につけ、より精緻な読解を目指す。 6、漢文訓読の基礎を身につけ、日本人の生活に密着した基本的な漢文を理解する。 7、国公立大学受験を見据えた記述指導や演習を積極的に行い、確かな基礎力と実践力を培う。</p>	<p>1、教科書を中心に学び、資料集や演習問題等で応用部分を発展させて学ぶ。新しい単元の通読及び語句の意味調べ、漢字練習等は予習として各自必ず行ってから授業に臨むこと。 2、単元の調べ学習やグループプレゼンにiPadを活用し、授業への理解を深める一助とする。 3、文法の学習においては、予習として文法書の該当部分を熟読しておくこと。適宜問題演習を行い、知識の定着をはかるが、各自でも復習・反復学習をすすめること。 4、古文読解の学習においては、予習として本文をノートに書き写し、品詞分解・単語調べをしておく。授業では、文法書や国語便覧を参照して文法事項及び作品の背景にも触れながら読解をすすめていく。重要な事項をしっかりとノートに取り、分からないところがあったら積極的に質問すること。また、復習の際に浮かんだ疑問点もそのままにはせず、自分で調べたり質問したりして、必ず解決するよう心掛けること。 5、漢文の学習においては、漢文の読み方をしっかり身に付けた上で、漢文で書かれた文章に触れていく。漢文の基本は中学校で学んだと思うが、忘れていた部分があったら授業に臨む前に復習しておく。また、分からないところはそのままにせず、積極的に質問すること。 6、古文単語や漢文の句法は小テストを行い、定着をはかる。また、テストで確認した部分についても、折を見て自主的に復習し、確かな知識としていくこと。</p>

	1学期始め～1学期中間	1学期中間～1学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
1年間の授業の進度	【古文教材】「児のそら寝」 【古文文法】歴史的仮名遣い、文節・単語、用言 【漢文教材】故事成語（朝三暮四）他 【漢文句法】訓点・書き下し文・置き字・返読文字	【古文教材】「天人の迎え」 【古文文法】用言、助動詞（過去・完了） 【漢文教材】故事成語（狐借虎威）または『十八史略』（管鮑之交）他 【漢文句法】再読文字	【古文教材】『伊勢物語』（芥川）（東下り） 【古文文法】助動詞（使役・受身・推量） 【漢文教材】『十八史略』（先從隗始） 【漢文句法】否定・使役	【古文教材】『土佐日記』（門出）（帰京） 【古文文法】助動詞（推量・断定） 【漢文教材】「雑説」韓愈 【漢文句法】受身・疑問・反語	【古文教材】『平家物語』（木曾の最期） 【古文文法】助動詞完成・敬語 【漢文教材】漢詩 【漢文句法】仮定・限定・詠嘆・抑揚等

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識技能	①生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けられている。 ②日本の言語文化に対する理解を深められている。 ③生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させようという意識が見られる。	授業内小テスト（単語・文法・漢文句形・漢文語彙など） 定期考査
思考力判断力表現力	①論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力が伸長している。 ・「書くこと」「読むこと」に関する事項を身に付けている。 ②他者（作品含む）との関りの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができている。	授業内小テスト（単語・文法・漢文句形・漢文語彙など） 定期考査
主体的に学習に取り組む態度	①言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。 ②生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させようという意識が見られる。 ③日本の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養おうとしている。	課題 グループワークまたは個人ワーク

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
高校1年	地理歴史	歴史総合	特選（高入）	2	教科書：明解 歴史総合 副教材：歴史総合の整理と演習

教科・科目の概要と目標	学習方法と流れ
<p>概要：現代の社会の基本的な構造がどのような歴史的な変化の中で形成されてきたのか、またそれがどのような現代的な諸課題と関わっているのか、課題意識を持って考察する。</p> <p>目標：(1)近現代の歴史に関わる諸事情について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。</p> <p>(2)近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>(3)近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。</p>	<p>授業：</p> <p>①【目標の提示】本時の授業において理解すべき目標を提示する。</p> <p>②【講義・演習】本時の目標を意識しながら授業を受ける。板書のみならず口頭での説明・解説も丁寧にメモをとり、理解の深化に努める。</p> <p>③【目標の達成】授業の冒頭にテーマとして提示された問いに回答する。</p> <p>その他：提出課題等は、必ず期限を守る。詳細は授業時のガイダンスでの指示による。</p>

	1学期始め～1学期中間	1学期中間～1学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
1年間の授業の進度	第2部4章 産業革命による欧米とアジアの変化 第2部5章 日本における近代国家の形成	第2部6章 帝国主義の影響と日本を含めた東アジアの変化	第3部1章 「国際秩序の変化や大衆化」への問い 第3部2章 第一次世界大戦とその影響	第3部3章 大衆社会の形成と社会運動 第3部4章 揺らぐ国際秩序と日本の行方（前半）	第3部4章 揺らぐ国際秩序と日本の行方（後半） 第3部5章 第二次世界大戦とその影響

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識技能	<p>①授業を通し、歴史の展開を理解することができる。</p> <p>②習得した知識をもとに、世界と其中的の日本の過去と現在を考察することができる。</p>	定期考査 小テスト、その他確認テスト等
思考力 判断力 表現力	<p>①歴史的事象の意味や意義、特色、事象相互の関連を多面的多角的に考察し、歴史に見られる課題を把握することができる。</p> <p>②学習したことを基に複数の立場や意見を踏まえ、その解決を視野に入れて構想できる。</p> <p>③自分の考察や構想を論理的・効果的に説明・論述し、他者の主張を踏まえたり取り入れたりしながら議論することができる。</p>	定期考査 ワーク・演習教材への取り組み状況とその内容 その他
主体的に学習に取り組む態度	<p>①歴史的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を身に付けている。</p>	課題提出 課題への取り組み状況とその内容 その他

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
高校1年	公民	公共	特選(高入)	2	【教科書】公共(東京書籍) 【副教材】プリント など

教科・科目の概要と目標	学習方法と流れ
<p>【概要】 社会のあらゆる場面に存在する「想定外」と「板挟み」に焦点をあて、中学社会で身に着けた知識や考え方を土台に、自分なりの考えをまとめ、行動へ移すきっかけをつかんでもらえるような授業を目指します。</p> <p>【目標】 人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指します。</p>	<p>詳細は各学期の初回ガイダンスで説明します。</p> <p>【予習】 教科書に準じた映像授業の視聴を課すことがあります。</p> <p>【授業】 アクティブラーニング型授業を取り入れます。「想定外」と「板挟み」を楽しみ、さまざま思考を深めていく経験は、自分の軸を作るべきこの時期に大変重要です。</p> <p>【復習】 基本的な用語を押さえることはもちろん、教科書の内容と時事問題をリンクさせながら捉えていくことも重要です。</p>

	1学期始め～1学期中間	1学期中間～1学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
1年間の授業の進度	公共的な空間をつくる私たち 公共的な空間における人間としての在り方生き方 公共的な空間における基本的原理	公共的な空間における基本的原理 民主政治と私たち 法の働きと私たち	法の働きと私たち 経済社会で生きる私たち	経済社会で生きる私たち 私たちの職業生活 国際社会のなかで生きる私たち	国際社会のなかで生きる私たち

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識技能	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	定期考査の得点 小テストの得点 など
思考力 判断力 表現力	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論したりしている。	定期考査の得点 小テストの得点 ワークシートへの取り組み状況とその内容 など
主体的に学習に取り組む態度	国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	課題への取り組み状況とその内容 など

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
高校1年	数学	数学I	特選(高入)	4	数学I, 数学II(数研出版) サクシード数学I+A, II+B+C チャート(青)I+A, II+B+C

教科・科目の概要と目標	学習方法と流れ
<p>数学I全範囲を学習し、さらに数学II「式と証明」「複素数と方程式」「図形と方程式」を先取りする。</p> <p>① 「数と式」「複素数と方程式」を通して、計算を素早く正確にできるようになる。 ② 「2次関数」「図形と方程式」「三角関数」「指数関数・対数関数」を通して、関数やそのグラフへの理解を深める。 ③ 「集合と命題」「式と証明」を通して、論理的に証明することができる。 ④ 「三角比」「データの分析」を通して、数学的な見方から事象を考察できる。</p>	<p>授業用のノートと、家庭学習(問題集)ノートの2種類を用意する。考査や模試の解き直しも家庭学習ノートにやる。</p> <p>① 「予習→授業→復習」の学習習慣を確立する(数学は特に復習を重視する)。 ② 適宜、復習確認テストを行う。テストは必ず解き直しを行う。 ③ 模試は終了後、必ず解き直しを行う。 ④ 家庭学習ノートには答えだけでなく、導き出す過程(途中式や文章)も書く。 ⑤ 長期休業中の登校講座では教科書を進めるので、全員参加が望ましい。</p>

	1学期始め～1学期中間	1学期中間～1学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
1年間の授業の進度	(数I) 2次関数 入学前課題(動画授業) (数I) 数と式	(数I) 命題と証明 (数I) 三角比 夏季登校講座 (数I) 三角比 (数II) 式と証明 夏季課題 (数I) データの分析	(数II) 式と証明 (数II) 複素数と方程式	(数II) 複素数と方程式 (数II) 図形と方程式 冬季登校講座 (数II) 三角関数	(数II) 三角関数 (数II) 指数関数と対数関数 春季登校講座 (数II) 指数関数と対数関数

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識技能	数学I全範囲および数学II「式と証明」「複素数と方程式」「図形と方程式」「三角関数」「指数関数・対数関数」における基本的な概念、原理や法則、用語や記号などを理解し、基礎的な知識を身に付けている。	・定期考査(計算など基本問題) ・復習確認テスト(計算など基本問題)
思考力 判断力 表現力	「集合と命題」「式と証明」における証明の組み立て、「2次関数」「図形と方程式」「三角関数」「指数関数・対数関数」におけるグラフによる関数の分析など、計算だけでなく結論を導き出す過程を正確に表現できる。	・定期考査(記述など応用問題) ・復習確認テスト(記述など応用問題)
主体的に学習に取り組む態度	授業の復習を必ず行い、課題・考査・模試の解き直しを綿密に行うだけでなく、身に付けた数学的な見方や考え方を積極的かつ発展的に活用することができる。	・提出物など

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
高校1年	数学	数学A	特選（高入）	3	数学A, 数学B, 数学C（数研出版） サクシード数学I+A, II+B+C チャート(青)I+A, II+B+C

教科・科目の概要と目標	学習方法と流れ
<p>数学A「場合の数と確率」「図形の性質」「数学と人間の活動」、数学B「数列」を学習する。特に「数列」は「場合の数と確率」「数学と人間の活動」と関連があり、後に学習する数B「統計的な推測」にもつながるため、基本の理解を徹底する。</p> <p>① 場合の数や確率の性質を理解し、現象を多面的に考察することができる。 ② 図形の基本的性質を理解し、論理的に考察したり説明することができる。 ③ 整数の性質を理解し、数理的に考察することができる。 ④ 漸化式と一般項について理解し、数学的帰納法を用いて考察することができる。 ⑤ ベクトルを用いて、色々な図形問題の考察ができる。</p>	<p>授業用のノートと、家庭学習（問題集）ノートの2種類を用意する。考査や模試の解き直しも家庭学習ノートにやる。</p> <p>① 「予習→授業→復習」の学習習慣を確立する（数学は特に復習を重視する）。 ② 適宜、復習確認テストを行う。テストは必ず解き直しを行う。 ③ 模試は終了後、必ず解き直しを行う。 ④ 家庭学習ノートには答えだけでなく、導き出す過程（途中式や文章）も書く。 ⑤ 長期休業中の登校講座は教科書を進めるので、全員参加が望ましい。</p>

	1学期始め～1学期中間	1学期中間～1学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
1年間の授業の進度	(数A) 集合 (数A) 場合の数と確率	(数A) 場合の数と確率 夏季登校講座 (数A) 図形の性質 (数A) 数学と人間の活動	(数A) 数学と人間の活動 (数B) 数列	(数B) 数列 冬季登校講座 (数B) 数列	(数C) 平面上のベクトル 春季登校講座 (数C) 空間のベクトル

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識技能	「場合の数と確率」「図形の性質」「数学と人間の活動」「数列」「ベクトル」における基本的な概念、原理や法則、用語や記号などを理解し、基礎的な知識を身に付けている。	・定期考査（計算など基本問題） ・復習確認テスト（計算など基本問題）
思考力 判断力 表現力	「場合の数と確率」における場合分け、「図形の性質」「数学と人間の活動」における証明の組み立て、「数列」における数学的帰納法、「ベクトル」での図形問題への対応など、計算だけでなく結論を導き出す過程を正確に表現できる。	・定期考査（記述など応用問題） ・復習確認テスト（記述など応用問題）
主体的に学習に取り組む態度	授業の復習を必ず行い、課題・考査・模試の解き直しを綿密に行うだけでなく、身に付けた数学的な見方や考え方を積極的かつ発展的に活用することができる。	・提出物など

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
高校1年	理科	物理基礎	特選 (高入)	2	物理基礎 (第一学習社) セミナー物理基礎 (第一学習社)

教科・科目の概要と目標	学習方法と流れ
<p>【概要】物理学は自然現象をよく観察して、さまざまな現象に存在する法則性を発見することから始まります。そのような法則は、自然がどのように成り立っていることによるのかを研究して、最終的には自然の本質にせまろうとする学問です。また、さまざまな自然現象に共通する原理や法則を発見するために、実験を通して、その測定データを分析することにより、原理や法則を見出していきます。</p> <p>物理基礎では、力学から始まり、物理学の自然理解の方法を学びつつ、熱、波動、電気について学びます。</p> <p>【目標】大学入試共通テスト、大学入試問題に対応できる基礎力を身につける。</p>	<p>1. 基礎的な内容を理解する上で演習を多く取り入れ、知識の定着をはかります。また、単元によっては、実験なども取り入れ、科学的な理解を深めていきます。</p> <p>2. 講義を中心に学習を進めていき、自然現象の法則性、さらには、自然の実態を理解していきます。さらに、練習問題、入試問題を解くことでその理解の定着をはかります。</p>

	1学期始め～1学期中間	1学期中間～1学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
1年間の授業の進度	第1章 力と運動 第1節 物体の運動 速度 加速度 等加速度直線運動 落下運動	第2節 力のはたらきとつり合い さまざまな力 力の合成・分解・つり合い 第3節 運動の法則 運動の3法則 運動方程式の利用	第3節 運動の法則 抵抗力を受ける力 第II章 エネルギー 第1節 仕事と力学的エネルギー 仕事と仕事率	第1節 仕事と力学的エネルギー 運動エネルギー 位置エネルギー 力学的エネルギーの保存 第2節 熱とエネルギー 熱と温度 エネルギーの変換と保存	第III章 波動 第1節 波の性質 第2節 音波 第IV章 電気 第1節 静電気と電流 第2節 電流と磁場

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識技能	観察、実験や課題研究などを通して物理的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則について理解を深め、知識を身に付けていること。	◇定期考査の素点の一部 ◇小テスト・確認テストの点数 ◇実験・観察後の提出課題の評価
思考力判断力表現力	物理的な事物・現象の中に問題を見出し、観察実験などを行うとともに、事象を実証的論理的に考えたり、分析的統一的に考察したりして、事実に基づいて判断できること。	◇定期考査の素点の一部 ◇小テスト・確認テストの点数 ◇実験・観察後の提出課題の評価
主体的に学習に取り組む態度	物理的な事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究するとともに、科学的態度を身につけていること。	◇小テスト・確認テストの点数 ◇実験・観察後の提出課題の評価

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
高校1年	理科	生物基礎	特選（高入）	2	高等学校 改訂 生物基礎（第一学習社） セミナー生物基礎（第一学習社）

教科・科目の概要と目標	学習方法と流れ
<p>【概要】 生物の体を構成する細胞の構造と働きから始まり、光合成や呼吸のしくみを学習します。遺伝の章では、遺伝子の本体であるDNAの構造や遺伝子として働くしくみ、細胞内での遺伝子の発現について学びます。次に生体防御のしくみや体内環境維持のしくみに入り、最後に生態系の学習で締めくくります。</p> <p>【目標】 生物の体のしくみや生命現象についての基本的な知識を学び、大学入試共通テストに対応できる学力の育成を図ります。</p>	<p>① 基礎的な内容から発展的なものまで、科学の持つ法則性、物質の持つ共通性・特殊性を学習します。</p> <p>② 問題演習・実験を通して単元内容を考察しながら、実験技能の向上を図ります。また、大学入試において題材にされやすい実験も取り入れ、科学的な理解を深めるだけでなく、将来の入試に対応できる力も養成します。</p> <p>③ 学習内容、時期によっては、授業動画（オンデマンド教材）も活用します。</p>

	1学期始め～1学期中間	1学期中間～1学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
1年間の授業の進度	第1編 生物と遺伝子 第1章 生物の特徴 第2章 遺伝子とその働き	第2編 生物の体内環境の維持（前半） ◇体液とその働き ◇体内環境の維持のしくみ	第2編 生物の体内環境の維持（後半） ◇生体防御	第3編 植生の多様性と生態系（前半） 第4章 植生の多様性と分布	第3編 植生の多様性と生態系（後半） 第5章 生態系とその保全

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識技能	◇自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 ◇観察、実験の基本操作を習得するとともに、自然の事物・現象を科学的に探究する方法を身に付け、それらの過程や結果及びそこから導き出した自らの考えを的確に表現する。	◇定期考査の素点の一部 ◇小テスト・確認テストの点数 ◇実験・観察後の提出課題の評価
思考力判断力表現力	◇自然の事物・現象の中に問題を見だし、目的意識をもって観察、実験などを行うとともに、事象を実証、論理的に考えたり、分析的、総合的に考察したりして問題を解決する。	◇定期考査の素点の一部 ◇小テスト・確認テストの点数 ◇実験・観察後の提出課題の評価
主体的に学習に取り組む態度	◇自然の事物・現象に関心を持ち、意欲的にそれらを探究するとともに、事象を人間生活とのかかわりで見ようとする。	◇小テスト・確認テストの点数 ◇実験・観察後の提出課題の評価

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
高校1年	保健体育	体育	共通	2	

教科・科目の概要と目標	学習方法と流れ
1. 運動技能・体力の向上、健康の増進、安全に対する知識・判断力を習得する。 2. 学校内はもちろん、学校以外の生活の場面でも、健康で明るい生活を送ることができるような身体作りをする。 3. 中学で修得した個人技能に加え、連携プレーなどで協力の精神を養う。また、スポーツ全般の基礎となる陸上競技を取り入れ、全身の持久力、瞬発力を高め筋力の増強に努める。 4. 体育祭を通し、集団の中で果たすべき責任を全うする能力を身に付ける。 5. 体育行事（主にTRF）を通して困難を前にたじろがない強い心を身に付ける。	・体育については、所定の場所（体育館・グラウンド・地下体育館）で実施する。 ※各種事情により取り扱う運動領域を変更する場合あり。

	1学期始め～1学期中間	1学期中間～1学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
1年間の授業の進度	集団行動 体育祭練習	体育祭練習 球技Ⅰ 体カテスト	体カテスト 球技Ⅱ	球技Ⅱ 持久走	球技Ⅲ 持久走

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識技能	・社会の変化とスポーツ、運動技能の構造と運動の学び方、体ほぐしの意義と体力の高め方に関する基礎的な事項を理解し、知識を身に付けている。 ・自己の能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して運動を行うとともに、運動の技能を高めている。また、自己の生活に応じて体力を高めるための運動の合理的な行い方を身に付けている。	各学期末に所定の場所（体育館・グラウンド・地下体育館）で行う実技テストで到達度を確認する他、授業への取り組み、出席状況、見学状況、課題提出状況などの資料を基に総合的に判断する
思考力 判断力 表現力	・自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、活動の仕方を考え、工夫している。	各学期末に所定の場所（体育館・グラウンド・地下体育館）で行う実技テストで到達度を確認する他、授業への取り組み、出席状況、見学状況、課題提出状況などの資料を基に総合的に判断する
主体的に学習に取り組む態度	・運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任などの態度を身に付けるとともに、健康・安全に留意して自ら運動をしようとする。	授業（単元）の目標到達における自己評価・他者評価の他、授業への取り組み、出席状況、見学状況、課題提出状況などの資料を基に総合的に判断する

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
高校1年	保健体育	保健	共通	1	大修館書店「新高等保健体育」

教科・科目の概要と目標	学習方法と流れ
<p>1. 多様化するライフスタイルの中で、生涯を通じいかに健康を維持し安全に過ごすことができるかを学ぶ。</p> <p>2. 個人及び社会生活における健康・安全についての理解を深める。</p> <p>3. 生活習慣病を理解し、より健康的なライフスタイルを身につける。</p>	<p>①本時の内容確認 → 講義・演習 → 本時のまとめ</p> <p>②授業には、教科書・ノート・配布プリントを用意しておくこと。</p> <p>③iPadをグループワーク・課題提出で使用する場合がある。</p>

	1学期始め～1学期中間	1学期中間～1学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
1年間の授業の進度	01日本における健康課題の変遷 02健康の考え方と成り立ち 03ヘルスプロモーションと健康に関わる環境づくり	04健康に関する意思決定・行動選択 05現代における感染症の問題 06感染症の予防 07性感染症の予防	08生活習慣病の予防と回復 09身体活動・運動と健康 10食事と健康	11休養・睡眠と健康 12がんの予防と回復 13喫煙と健康	14飲酒と健康 15薬物乱用と健康 16精神疾患の特徴 17精神疾患への対応

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識技能	個人生活及び社会生活における健康・安全について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身に付けている。	・各学期の期末考査と平常点（授業への取り組み、出席状況、課題提出状況など）の資料を基に判断する
思考力 判断力 表現力	個人生活や社会生活における健康・安全について、課題の解決を目指して考え、判断している。	・各学期の期末考査と平常点（授業への取り組み、出席状況、課題提出状況など）の資料を基に判断する
主体的に学習に取り組む態度	個人生活や社会生活における健康・安全に関心をもち、意欲的に学習に取り組もうとする。	・ディベート、グループ発表、体験的活動などの取り組み状況を基に判断する ・提出物の提出状況

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
高校1年	英語	英語 コミュニケーションI	特選(高入)	JET: 2単位 NET: 1単位	CROWN English Communication I・II / LEAP Smart Reader Approach Shape it! L.2 / be Smart I

教科・科目の概要と目標	学習方法と流れ
<p>1. 社会的な話題について、文章や話の展開を把握しながら概要や要点・詳細を理解し、情報や自身の考えを展開を考えながら詳細に伝えることができることを目指す。特に文構造や論理展開に必要な文法・語法やディスコマーカを習得し、読解・リスニング問題の解法を身につける。</p> <p>2. NETによるオーラルコミュニケーション(OC)で実践的な英語力を育成する。</p> <p>3. スタサブEnglishを活用して4技能を育成し、英検2級取得を目指す。</p>	<p>1. 『CROWN I・II』『LEAP』を用いて語彙力と読解力を身につける。</p> <ul style="list-style-type: none"> LEAPを用いて語源や使用法を理解しながら小テストを活用して覚える。 Smart Readerを用いて文構造を把握しながら分析的読解を心掛ける。 双方向性の高いロイロノートやICT機器を用いて思考力を鍛える。 音読・シャドーイングを通して運用力を高める。 <p>2. ネイティブ英語教師(NET)がShape it!/CROWN/beを用いてクラス2分割でAll Englishの授業を行い、Speaking, Writing, Presentation, Discussionなど実践的なコミュニケーション能力の基礎を育成する。</p>

	1学期始め～1学期中間	1学期中間～1学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
1年間の授業の進度	①CROWN I L.1～5 抜粋 SR Approach 1～5 ②Shape it! CROWN I L.1～5の内容から	①CROWN I L.6～10 抜粋 SR Approach 6～11 ②Shape it! CROWN I L.6～10の内容から	①CROWN II L.1～3 (抜粋) SR Approach 12～16 ②Shape it! CROWN II L.1～3の内容から	①CROWN II L.4～7 (抜粋) SR Approach 17～22 ②Shape it! CROWN II L.4～7の内容から	①CROWN II L.8～10 (抜粋) SR Approach 23～28 ②Shape it! CROWN II L.8～10の内容から

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識技能	読解や聴解に必要な語彙力や文構造および論理展開の把握するための基本的な知識・技術を持っているか、また自分の意見や感情を伝える基本的な語句や方法を理解しているか。	定期考査やその他のアクティビティなどの成績による
思考力 判断力 表現力	初めて触れる身近な話題あるいは社会的な話題に関して、習得した知識・技能を用いて、深く思考・判断し、自分の意見・感情を正確に表現することができるか。	定期考査やその他のアクティビティなどの成績による
主体的に学習に取り組む態度	総合的な英語力を高めるために、強い意志を持って学習に取り組み、日常の学習習慣を築くことができているか。	小テスト、提出物、Oral Communicationのさまざまなアクティビティ・貢献度など

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
高校1年	英語	論理・表現 I	特選(高入)	3	Grammar Collection Evergreen / Vintage / Drive / イディオムマスター

教科・科目の概要と目標	学習方法と流れ
<p>1. 社会的な話題について、情報や自身の考えなどを多様な語句を用い、展開を考えながら詳細に話して伝えることができることを目指す。特に文法においては大学入試レベルに対応できる力を目指し、空所補充問題や正誤問題、整序問題など基礎的な演習力を身につける。</p> <p>2. 語彙学習の基礎となる語源や基本動詞・語法・前置詞を習得する。</p> <p>3. 英作文や精読に必要な文構造の分析力をつける。</p> <p>4. リスニング力向上に欠かせない音素などを学ぶ。</p> <p>5. スタディサプリを用いて家庭学習の充実を図る。</p>	<p>1. Grammar Collection/Vintageを用いて受験英文法を習得させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> Evergreenのパワポを用いて英文法の概要を説明する。 Grammar CollectionのPoint/Practiceを使用し演習力を身につける。 Evergreen 47を宿題にし、Driveは夏・冬・春の課題・講座で用いる。 Vintageを用いて大学入試レベルを把握する。朝テストで使用する。 <p>2～3. 英語の要素を解説し分析するための知識と技術を養成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 単語の語源や英熟語の基本動詞と前置詞の理解を基に定着を図る。 <p>4. スタディサプリを適宜配信し別の角度から復習を試みる。</p>

	1学期始め～1学期中間	1学期中間～1学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
1年間の授業の進度	①Grammar Collection (14～15マ) 1. 時制 2. 受動態 3. 助動詞 4. 仮定法 *Evergreen 解説 / Evergreen47 宿題 *時制と受動態の体系化(12時制・相) *助動詞の訳し分けと完了形 *直説法と仮定法の区別 ②Vintage朝テスト / Drive課題・講座 01～04 時制～仮定法	①Grammar Collection(13～14マ) 5. 不定詞 6. 動名詞 7. 分詞 *この分野は得意。動詞の語法も参照 *能動と受動の区別 *分詞構文は時間をかけて ②Vintage(朝) / Drive(夏) 05～07 不定詞・動名詞・分詞	①Grammar Collection (14～16マ) 8. 9. 動詞の語法 10. 関係詞 11. 接続詞 *動詞の文型と関係詞の欠落部分に焦点を *接続詞は意味の広がり論理関係に注意 *高入生は語法・品詞(動詞)が弱点 ②Vintage(朝) / Drive(秋・文化祭) 17 動詞の語法 8 関係詞 9 接続詞	①Grammar Collection (16～18マ) 15. 比較 12. 前置詞 13. 形容詞 14. 副詞 *比較は元の形や比較の対象など文構造や重要表現の理解に時間をかける *高入生は語法・品詞(形容詞・副詞)が弱点 ②Vintage(朝) / Drive(冬) 11 比較 10 前置詞 20 形容詞 21 副詞	①Grammar Collection (16～18マ) 16. 名詞 17. 代名詞 18. 主語と動詞の一致 19. 疑問文 20. 否定・倒置・省略・強調 *否定・倒置・省略・強調は重要、先でも可 *高入生は語法・品詞(名詞)が弱点 *特に代名詞は差がつきやすい ②Vintage(朝) / Drive(入試・春) 18 名詞 19 代名詞 12 SV 13 疑問文 14 否定 15 倒置・省略・強調

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識技能	作文や会話に必要な語彙力や音素の知識、また英文法体系や文構造を把握し活用するための基本的な知識・技術を持っているか、また自分の意見や感情を伝える基本的な英単語や英熟語を理解しているか。	定期考査やその他のアクティビティなどの成績による
思考力判断力表現力	初めて触れる身近な話題あるいは社会的な話題に関して、習得した知識・技能を用いて、深く思考・判断し、自分の意見・感情を正確に表現することができるか。	定期考査やその他のアクティビティなどの成績による
主体的に学習に取り組む態度	総合的な英語力を高めるために、強い意志を持って学習に取り組み、日常の学習習慣を築くことができているか。	小テスト、提出物、スタディサプリなどの取り組みなど

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
高校1年	家庭	家庭基礎	共通	2	家庭基礎 持続可能な未来をつくる（第一学習社）

教科・科目の概要と目標	学習方法と流れ
<ol style="list-style-type: none"> 1. 男女が協力し合い、家庭・家族や社会の一員としての役割と自覚を養う。 2. 衣・食・住に関する基礎的な知識を習得する。 3. 社会の変遷に対応できる能力と知識を身につける。 4. 授業を通して、自らの生活を積極的に築き上げるための力を養う。 5. グループ学習を通して、協調性や物事を計画的に進める力を身につける。 6. 実験・実習を通して、体験的に「生きる力」を身につける。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 本時の内容確認 → 講義・演習・実習 → 本時のまとめ・片付け ② 授業には、教科書・配布プリント・ファイル（学校で配布されたもの）・iPadを用意しておくこと。 ③ 実習に関しては、指示されたものを用意しておくこと。 ④ 課題や実習などの取り組み状況は、平常点の一部として評価する。

	1学期始め～1学期中間	1学期中間～1学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
1年間の授業の進度	これからの生き方と家族 ・生涯の生活設計 ・家族・家庭と社会とのかかわり	ともに生きる 食生活をつくる 生活の中の基礎技術(被服) ・人の一生と食事	食生活をつくる ・栄養と食品 ・食生活の安全のために ・食生活をデザインする	経済生活をつくる ・私たちの暮らしと経済 ・消費者問題を考える	経済生活をつくる ・持続可能な社会をめざして

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識技能	生活や技術に関する基礎的な事項や生活と技術とのかかわりについて理解し、知識を身に付けている。また、生活に必要な基礎的な技術を身に付けている。	学期末考査、製作した作品の完成度、及び提出物をもとに総合的に評価する。
思考力 判断力 表現力	授業を通して自分の生活について見直し、課題をみつけ、その解決を目指して自分なりに工夫し創造して表現できる。	学期末考査、製作した作品の完成度、授業内発表、及び提出物をもとに総合的に評価する。
主体的に学習に取り組む態度	日々の生活関心をもち、生活を充実向上させるために知識や技術を進んで身につけ実践しようとする態度が見られる。	授業への取り組み、製作した作品への意欲（作品に取り組む態度、期日に向けての計画性）、及び授業内発表についての自己評価、及び相互評価をもとに総合的に評価する。